

『Mind Charging』

第 145 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 5 日

漫画『名探偵コナン』江戸川コナンの名言



一度口に出しちまった言葉は、もう元には戻せねーんだぞ。

言葉は刃物なんだ。使い方を間違えると厄介な凶器になる。

言葉のすれ違いで一生の友達を失うこともあるんだ。

以前、このコラムで『ドラマ：3年A組 柊先生の名言』で紹介した名言と同じような内容になりますが、人間として自分の思いを誰かに伝えられる非常に便利な能力である『言葉』について今回もご紹介します。

音声でも手話でも文字でも点字でも、“自分の言葉”で私たちは人に伝えることができます。電話であれば語気も、対面や画面上で姿を見られる状態の時は表情(態度)もプラスして伝えることができますが、文字だけのやり取りとなると細かな心理状態などは読み取ることが難しく、最近でこそ絵文字やスタンプなどで文字にプラスして感情を乗せることができるようになったものの、やはり生で対面した状態以上に“より正確な”気持ちの行き来ができる方法はありません。そういう意味ではそれ以外にもこのように言葉で伝えることは可能でも、“言葉の使い方”は本当に注意しなくてはいけないことがわかります。

今回の言葉について逆側から考えてみると、“使い方や伝え方を悪い方に利用すると、どこまでも人を傷つけることができちゃう”ということです。『対面していない、表情が読み取れない、誰が言っているのかわからない、何人の人が言っているのかわからない』など、いたずらに不安を煽るように伝えることもできます。『便利になったことにより、助けられた人よりも困った人の方が多いのかもしれない・・・』と、恐ろしいことを考えてしまいます。本当に厄介な凶器になる危険性があります。

正智深谷のみなさんは高校生であり、中学校までのように近所で暮らす人だけで集まった組織の一員ではありません。国内でも地域によって文化や考え方が違います。国が変わればなおさらです。語学も学ぶ皆さんです。言葉について、この機会に今一度じっくり考えてみてはいかがでしょうか。(編集委員：入試広報室 鈴木)

『名探偵コナン』(めいたんていコナン、英: Detective Conan)は、1994年刊行開始の青山剛昌原作による日本の推理漫画作品であり、本作を原作とした一連のメディアミックス作品の総称。話数カウントは「FILE.」。掲載時には、エピソードごとの区切りとして、扉絵のページに「シリーズ第何話(解決編の場合は「シリーズ解決編」)」が表記されている。(Wikipedia 参照)